

横須賀高校卒業生が制服姿で母校訪問



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・有吉将人1等空尉）は6月16日（金）、静岡県立横須賀高等学校（掛川市）で行われた大石真生2等陸士の母校訪問に同行した。

大石2士は今春、陸上自衛隊一般曹候補生として入隊し、神奈川県横須賀市の武山駐屯地で前期教育訓練に励んでいる。掛川市担当広報官の箕輪勝政1等空曹が引率し、約3カ月ぶりに母校の正門をくぐった。

陸上自衛隊の凛々しい制服姿で母校を訪問した大石2士は、所属していたテニス部の後輩部員と顧問の先生など約20人と再会し、自衛隊の制度や訓練、生活などについて体験談を語った。

生徒たちは興味深い様子で話を聞き、積極的に質問する姿も見られ、大石2士は丁寧に答えていた。また、自衛隊唯一の落下傘部隊である空挺隊員を目指し高い目標をもって日々鍛錬に励んでいることや、これから進路を決定していく後輩に対してのアドバイスなども行った。

進路課長の小出教諭は「たった3カ月で精神的にも肉体的にもたくましく成長していました。大石君は在学中、目標に向かって頑張る生徒で、自衛官になってもしっかりと目標をもって取り組んでいて素晴らしい。目標である空挺隊員になったという報告を楽しみにしています」と、嬉しそうに語った。

また、大石2士は「自衛官として母校を訪問し、先生や後輩に自衛隊での生活や魅力を伝えることができて本当に嬉しかったです。今後も継続して多くの後輩に自衛隊の素晴らしさを伝えたいです」と熱く意気込んだ。

袋井所は、今後も入隊者と緊密に連携し学校等への広報活動を積極的に実施し、自衛隊に対する理解促進に全力を尽くす。

原野谷中学校で職業講話とロープワーク体験



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・有吉将人1等空尉）は6月20日（火）、掛川市立原野谷中学校で行われた職業講話に参加した。

これは、自衛隊や消防、美容関係やハウスクリーニング等さまざまな職業に就いている人たちから話を聞くことで、生徒がそれぞれの仕事内容ややりがい、夢を持って生きることの素晴らしさを学ぶもの。

袋井所からは、多田政彦1等海曹と箕輪勝政1等空曹が講師として参加し、1・2年生の希望者20人に約1時間の講話を実施した。

講話では、自衛隊の仕事の概要や特色、やりがいや苦労などを自身の経験を交えて紹介し、「身近で使える自衛隊のロープワーク」と題し、簡単なロープワークの体験を行った。

参加した生徒からは、「自衛隊の仕事がよく理解できた」「今日習ったロープワークを実際の災害時やキャンプなどに活用したい」といった感想があり、自衛隊の仕事への理解向上と自分の生き方・進路について考える場となった。

袋井所は、今後も担当地域の学校と積極的に連携し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努め、生徒たちが描く将来の夢や可能性の拡大と結実に貢献していく。

募集解禁！ 駅前で自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部藤枝地域事務所（所長・宝保竜平1等陸尉）は、7月3日（月）にJR藤枝駅（藤枝市）、4日（火）にJR焼津駅（焼津市）と同島田駅（島田市）周辺において、高校生への採用活動解禁に合わせたPR活動を行った。

これは毎年7月に行っているもので、県内の駅周辺で高校生等に採用案内の入ったポケットティッシュを配り、自衛官募集をPRするもの。

「おはようございます」「自衛隊です」。梅雨の時期ではあるものの天候にも恵まれ、朝6時半から約1時間、制服姿の広報官や腕章をつけた各市の募集相談員が通学途中の高校生たちに声を掛け、ポケットティッシュを手渡した。

普段街中では見かけることのない陸・海・空自衛官の姿は人通りの多い中でも注目を集め、駆け寄って来て自らティッシュを受け取る学生や、「自衛隊に興味があります。イベントなどはありますか」と話しかけてくれる高校生の姿もあった。

藤枝所は、今後も自衛隊の活動を多くの若者に知ってもらい、将来の職業選択のひとつとして認識してもらえよう広報活動に尽力していく。